

はじめに

私は中央大学国際情報学部にて1期生として入学しました。1年次は1期生の学生たちで学園祭を創り上げ、2年次はゼミナール活動を開始。3年次はゼミナール単位での研究報告会、4年次である現在には卒業論文の執筆やゼミナール活動に勤しんでおり、忙しくも充実した4年間を過ごしています。

学年が上がるにつれ新たな後輩たちにも恵まれ、私自身を含め周囲の仲間たちの成長を改めて感じています。そんな私たちが1期生の多くは、国際情報学部生として初めての就職活動に挑みました。

払拭された不安

入学当初より、先輩がいない状況下での就職活動に大きな不安がありました。しかし、いざ就職活動が始まると、その不安は即座に払拭されました。それは国際情報

新設学部1期生としての
初めての就職活動

国際情報学部国際情報学科4年
神奈川県立希望ヶ丘高等学校出身

スヘイル 翔輝流

学部1期生の仲間たちがいたからです。1期生たちを見てみると「彼らも私と同じく、右も左もわからない中で就職活動を頑張っているのだ」と思うことができ、自然と勇気が湧いてきました。就職活動が本格化してからは、1期生の仲間と共に面接練習を行い、選考が思うように進まないときは励まし合い、誰かの成功をみんな喜び、支え合いました。結果、私は第1志望である製薬企業から内定をいただくことができました。

国際情報学部の一体感

国際情報学部は1学年約1500人。市ヶ谷田町キャンパスは約6000人の国際情報学部だけが入るキャンパスです。学生間の交流が深く濃いからこそ、国際情報学部には強い一体感があります。

私がそれを特に強く感じたのは「資格試験の学習」のときです。私は「情報」「法律」「国際」のすべての分野を頑張りたい」とい

う思いと「就職活動において、私にしかない価値をアピールしたい」という思いから、「情報」「法律」「国際」それぞれの分野の資格試験に挑戦しました。3分野の学びの過程では困難にぶつかることが多くありました。その際は、「法律関係の疑問は法律の学習が得意な友人に聞く」という方法を取り、情報と国際に関する疑問も同様の方法で解決してきました。当たり前のように協力し合い、助け合える学生にあふれているのが国際情報学部です。加えて国際情報学部には「自主的にデジタルコンテンツを制作す



ビジネス実務法務検定試験とTOEIC

る人」や「ボランティアなどの活動に積極的な人」といったように、バイタリティーにあふれている人が多く「私も資格試験を頑張ろう!」と力をもらいました。結果、情報分野では「ITパスポート試験」と「情報セキュリティマネジメント試験」に合格し「Microsoft Office Specialist (3種)」も取得しました。加えて法律分野では「ビジネス実務法務検定2級」を取得し、国際分野では「TOEIC815点」を達成しました。現在は「TOEIC900点」に向けた勉強に励んでいます。一体となり助



情報処理技術者試験と
Microsoft Office Specialist



け合い、頑張る人を応援するのが国際情報学部の特徴だと感じています。

ゼミナールでの活動と企業選び

私が所属しているゼミナールでは「SDGs（持続可能な開発目標）」をテーマに研究をしています。「SDGsはすべての人や団体の協力のもとに達成されるべき」という思いから、私はSDGsへの取り組み度合いを企業選びの軸の一つにしました。実際にゼミナールでは「SDGsへの取り組みが評価されている企業」を調べることがあり、これが私のキャリア選択に深く影響を及ぼしました。

国際情報学部と社会

就職活動を通し、国際情報学部で培うことができる力は社会で必要とされる力とマッチしていると感じました。昨今は、DX推進や業務効率化の影響によりインターネット機器を適切に扱える力がより一層求められる時代です。加えて日本における少子高齢化やグローバル化の影響で、「国際力」（語学力のみならず、異文化理解などを含む）も求められており、法令順守についてはかねてよりすべての人に求められています。だからこそ、国際情報学部で学ぶ事柄や国際情報学部で培える力は、社会に出てから必要となるものばかりだと実感しています。

最後に

これから社会に出る私たち国際情報学部1期生は、国際情報学部の顔となると

いっても過言ではありません。変化の大きい時代の中でも学部での学びを忘れることなく、「情報」「法律」「国際」におけるジェネラリストとして立派な社会人になります。今後、2期生の就職活動は本格化していき、また、3期生でも早い人はインターシップ等が視野に入っていることでしょう。うまくいかないことやわからないことがあれば、所属するゼミの先生を経由する等して、1期生の先輩やキャリアセンターも頼ってほしいです。1学年150人の国際情報学部。学部一体となって、卒業後の次のステップを切り開いていきましょう。



西村ゼミの仲間たち